

2025 年度 長岡大学シラバス

授業科目名	プログラミング基礎 (Basics Programing)					担当教員	坂井 一貴 (サカイ カズタカ)	
2020-23 年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL/ 協同学修型 AL
	2037-5-23-146	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		
2024-25 年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL/ 協同学修型 AL
	2437-5-23-085	専門科目	選択	2 単位	2 年次	後期		

① 授業のねらい・概要								
現在、社会では AI や RPA などが導入されつつあり、「消える職業」などが話題になっている。そのような仕組は、すべてコンピュータ内でプログラム処理されたものになっており、小学生から必須化されたプログラミング、またその思考は今後の世の中でも必要不可欠なものになる。 本授業では、代表的なプログラミング言語の Java を用いて、プログラムの基本制御構造 3 つ「順次処理」「分岐処理」「反復処理」の使い方を修得し、自ら簡易なプログラムを作成できる能力を身に付けることを目的とする。								
② ディプロマ・ポリシーとの関連								
職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。								
③ 授業の進め方・指示事項								
- 教科書を用いて、プログラミングの方法、各種制御構造の説明を行い、実際に教科書内にあるプログラムを作成し基本的な知識を修得する。 - プログラムは、指示された通りタイプするのではなく自ら考え、それをプログラムとすることが本質のため、類題を提示しそれを自ら作成することで、実際のプログラム作成能力を培う。 - 類題および課題については、授業外学修時間 60 時間の中で行うことが多くなり、自らアルゴリズムを考える論理的思考力が非常に重要である。								
④ 関連科目・履修しておくべき科目								
2 年前期 配当科目「プログラミング入門」の単位修得していることが必要。または、それと同等以上の能力を明確に有すること。(すなわち、変数、配列、論理演算、比較演算、順次処理、分岐処理、反復処理 の keywords を十分に理解している水準)								
⑤ テキスト(教科書) ※授業で使用する。								
日本商工会議所 (2019) 『日商プログラミング検定 STANDARD 公式ガイドブック (Java)』TAC 出版								
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。								
- 佐々木 整 (2018)『本格学習 Java 入門 [改訂 3 版]』技術評論社 - 柴田 望洋 (2020)『新・明解 Java 入門 第 2 版』SB クリエイティブ								
⑦ 担当教員からのメッセージ (昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)								
プログラミングを行う思考力(アルゴリズムを考える能力)は、各制御構造を学んだ後、自らプログラミングの演習を行い、ノウハウを蓄えていくことで、徐々に能力が養成されていく。 履修者は、事後学修(授業外学修時間: 全体では 60 時間相当)を活用してそれらに取り組み思考力の強化する。								
⑧ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安								
(i) 【知識】スムーズにプログラム作成に取り掛かれる知識として、基本制御構造や算術演算子、比較演算子、論理演算子、変数型等が具体的にどのようなものか説明できる。 (ii) 【技能】指示されたプログラムをエディタに入力し、PowerShell (コマンドプロンプト) でコンパイル、デバッグ、実行をすることができる。 (iii) 【思考力・判断力・表現力】50 行程度の簡単なプログラムならば、各制御構造の論理的な展開を理解し、それらを適切な順番で組み合わせることにより目的の課題を解決するためのプログラムの論理構造を考え、具体的なプログラムを作成できる。								

⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 【知識】	「A」に加えて、クラスやメソッド、オブジェクト指向等の概念を説明する	基本制御構造や算術演算子、比較演算子、論理演算子、変数型がどのような	基本制御構造や算術演算子、比較演算子、論理演算子、変数型がどのような	基本制御構造や算術演算子、比較演算子、論理演算子、変数型がどのような	基本制御構造や算術演算子、比較演算子、論理演算子、変数型がどのような

…説明できる	ことができる。	ものかを、教科書・参考書を見ることなく具体的に説明できる。	ものかを、教科書・参考書を見ることなく具体的に8割以上の項目の説明できる。	ものかを、教科書・参考書を参考にすれば具体的に説明できる。	ものかを、教科書・参考書を参考にしても説明できない。
(ii) 【技能】 …実行できる	「A」に加えて、PowerShell (コマンドプロンプト) の各種コマンド、および任意のディレクトリ、ドライブ間の移動をすることができる。	指示されたプログラムをエディタに入力し、PowerShell (コマンドプロンプト) でコンパイル、デバッグ、実行をすることができる。	指示されたプログラムをエディタに入力し、PowerShell (コマンドプロンプト) でコンパイル、実行をすることができる。	指示されたプログラムをエディタに入力し、多少の助言を得ることで、PowerShell (コマンドプロンプト) でコンパイル、実行をすることができる。	指示されたプログラムをエディタに入力し、助言を得ても PowerShell (コマンドプロンプト) でコンパイル、実行をすることができない。
(iii) 【思考力・判断力・表現力】 …プログラムを作成できる	「A」に加え、目的のプログラムを作成する際、最も効率的な(可能な限り短い、後で修正しやすいような変数活用、汎用性など)アルゴリズムを考え、プログラムを作成することができる。	50 行程度の簡単なプログラムならば、各制御構造の論理的な展開を理解し、それらを適切な順番で組み合わせることにより目的の課題を解決するための効率的なプログラムを作成することができる。	50 行程度の簡単なプログラムならば、各制御構造の論理的な展開を理解し、それらを適切な順番で組み合わせることにより目的の課題を解決するためのプログラムを若干非効率ではあるが作成することができる。	多少の助言を得ることで、50 行程度の簡単なプログラムならば、各制御構造の論理的な展開を理解し、それらを適切な順番で組み合わせることにより目的の課題を解決するためのプログラムを作成することができる。	多少の助言を得ても、50 行程度の簡単なプログラムを作成することができない。

⑩ 学習到達目標 (評価項目)	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%		20%				100%
(i) 【知識】…説明できる	40%						40%
(ii) 【技能】…実行できる			15%				20%
(iii) 【思考力…】…プログラムを作成できる	40%		5%				40%
フィードバックの方法	筆記試験は、採点后返却をする。併せて模範解答を提示する。 課題やレポートについては、模範解答例を提示する。						

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間(分)(※特別な持参物)	
1	第1章 Java プログラミング プログラムの作成方法エディタと PowerShell の使い方	教科書該当箇所を熟読し他者に説明できる水準で理解をする。 PowerShell でのコマンド処理をスムーズにできるようにする。	90 分
2	第1章 Java プログラミング 簡単なプログラムの作成 println(), 連結演算子「+」、改行記号「\n」、文字列、;	教科書該当箇所を熟読し他者に説明できる水準で理解をする。 " " がなぜ必要かなど文字と文字列を出力する方法を理解する。	90 分
3	第2章 変数とデータ型 変数名の付け方と変数型変数の定義、各種演算子	教科書該当箇所を熟読する。 変数の型や各種演算子をどのように使い分けられるか判断できるようにする。	120 分
4	第2章 変数とデータ型 インクリメント、デクリメント、前置加算子、後置加算子	教科書該当箇所を熟読する。 変数の型や各種演算子をどのように使い分けられるか判断できるようにする。	120 分
5	第2章 変数とデータ型 変数型のキャスト 第2章の範囲の練習問題	教科書該当箇所を熟読する。 変数の型の範囲を理解し、キャスト時の挙動を「2の補数」を踏まえ説明できるようにする。	300 分
6	第3章 Java API static メソッド、インスタンスメソッド	教科書該当箇所を熟読する。 Excel の関数などと比較しながらメソッドの仕	120 分

		組み・挙動を説明できるようにする。	
7	第4章 条件判定条件 二分岐 if 文, if -- else 文	教科書該当箇所を熟読する。 Excel の IF() 関数と比較しながら, Java の条件判定命令を説明できるようにする。	180 分
8	第4章 条件判定 条件多分岐, if 文のネスト構造 if -- else if -- else 文	教科書該当箇所を熟読する。 Excel の IF() 関数のネスト構造と比較し, Java の if 文を理解し, 条件多分岐のプログラムを構築できるようにする。	300 分
9	第4章 条件判定 条件多分岐, switch - case 文と break	教科書該当箇所を熟読する。 if 文のネスト構造と switch - case 文を使い分けと, break 命令の必要可否を判断できるようにする。	300 分
10	第5章 繰り返し文 条件による反復構造 while 文と do - while 文	教科書該当箇所を熟読する。 条件判定による反復処理構造を理解し, 適切なプログラムを組めるようにする。また前判定と後判定の違いが説明できるようになる。	180 分
11	第5章 繰り返し文 回数指定の反復構造 for 文	教科書該当箇所を熟読する。 for 文の命令構造を理解し, 反復処理を用いたプログラムを組めるようにする。for 文と while 文を適切に使い分け判断ができるようにする。	180 分
12	第5章 繰り返し文 反復構造のネスト (入れ子) break, continue, ラベル	教科書該当箇所を熟読する。 for 文のネスト構造を用いたプログラムにおける変数 i, j の挙動を具体的に説明できるようにする。	240 分
13	第6章 一次元配列 配列の生成と添え字, for 文を用いた配列要素の利用, 二次元配列	教科書該当箇所を熟読する。 変数と配列の違いを理解し, 適切な使い分け判断ができるようになる。 二次元配列の構造を理解し, for 文のネスト構造を用いて, 配列要素を適切に利用できるようになる。	300 分
14	第7章 応用問題バブルソート法	応用問題等を通じて, 変数, 順次処理, 分岐処理, 反復処理, 配列等を自らの判断で使い分け, 目的のアルゴリズムを構築し, プログラムが作成できるようにする。	300 分
15	総合的なまとめ	これまでのすべての学修について整理し 筆記試験で⑧ ⑨で示した到達目標に達するよう, 知識を頭の中に整理整頓する。 レポート課題を作成し, 他者に自分自身のアルゴリズムが正しく伝わるレポートを執筆する。	480 分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL および協同学修型 AL を採用する。 毎回のリフレクションシートによって理解度を確認し, それによって翌週の授業でコメント, または反復学修を行う。 プログラム作成課題においては, 学生同士ペアやグループになって情報を共有し, 複数のアルゴリズム (プログラミングの考え方) があることを理解し, それによってさらに各制御構造の使い方等の理解を深めることによって知識の定着を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性